

最近 10 年間の爆破予告犯罪に おける犯人像の分析

財 津 亘*

Offender Profiles for Bomb Threats in the Last 10 Years

Wataru ZAITSU

Bomb threat cases during 10 years, and characteristics of the offenders were investigated. Results indicated that nearly all of the 37 offenders that used electronic tools such as the Internet and email were in the teens and twenties, they had no criminal record. In comparison, 60.5% of the 43 offenders that used the telephone were unemployed. Moreover, 57.1% of the offenders in the telephone category targeted the school of their teens; the motive for the crime was mischief. 66.6% of the offenders that targeted banks were over 40 years of age and the motive for the crime was money.

key words: Bomb threat crime, Offender Profiling, Fisher's exact test

問題・目的

犯人の早期検挙を目的とした捜査支援手法に犯人像推定が挙げられるが、爆破予告に関する研究は未だみられない。

そこで、本研究では、まず過去 10 年間に爆破予告に及んで検挙された事件及び犯罪者情報に基づき、使用媒体別（ネット掲示板への書き込みや電子メールなどの電子ツールと電話）で犯人特徴に違いがみられるか検討した。

続いて、通信記録が残りにくい電話による犯行に着目し、犯人特徴を詳細に分析した。中でも公衆電話は誰でも使用できるため、犯罪捜査が最も困難といえることから、公衆電話と犯人の住居までの距離も合わせて検討した。

方 法

調査対象 警察資料・ネット・新聞を基に、1999 年から 2008 年 6 月までに発生し検挙された 80 名の事件情報を収集した。本研究では、連続犯行の場合は 1 件目を、複数犯の場合は首謀者の情報を扱った。このうち、複数犯の事件は電話使用者で 3 件、模造爆弾等の設置は電話使用者で 4 件あった。収集した資料のうち、電子ツール使用者が

37 名で、その内訳はネット掲示板等の書き込みが 32 名、電子メール送信が 5 名であった。また、電話使用者は 43 名で、内訳は携帯電話 14 名、公衆電話 22 名、自宅電話 7 名であった。

本研究では、収集した資料を基に、捜査側で把握可能な情報として、爆破を予告された対象、架電先、金銭要求の有無、犯人の性別、電話種別を扱った。犯人特徴については、年代・職業・住所の有無・犯行動機・犯人と爆破対象との関連の有無について扱った。爆破対象との関連とは、爆破対象箇所に現在勤めている、過去に勤めていた、もしくは客や患者として関わりがあることを意味する。

調査手続き まず、電子ツールおよび電話による爆破予告について、犯人特徴を比較検討した。なお、期待度数 5 以下のセルが多くあったことから、本研究では Fisher の直接法による検定を実施した。

続いて、電話による爆破予告の犯人特徴を捜査側で把握可能な情報別に比較検討した。

また、公衆電話使用者の住所と公衆電話設置箇所の距離の代表値（平均・中央値・最小値・最大値）を算出した。

結 果

Table 1 は使用媒体別（電話と電子ツール）で犯人特徴を示したクロス集計表である。Table 1 によると、性別は両媒体とも男性が 9 割程度と大多数を占めていた。職業については、電話使用者に無職が有意に多く、電子ツール使用者に学生が比較的多い特徴がみられた。年代にも特徴がみられ、電子ツール使用者の場合 10 代 20 代で 8 割強を占めていた。住所については、電話使用者で住所不定が比較的多かった。また、電子ツール使用者は犯罪歴のない者が有意に多かった。動機に関しては、電話使用者で憂さ晴らしが最も多いのに対し、電子ツール使用者は悪戯を目的とする犯行が最も多かった。加えて、電話使用者にのみ金銭目的の爆破予告がみられた。さらに、電話使用者に爆破対象と関連のある者が比較的に多かった。

続いて、電話による爆破予告のみに着目し、犯行形態別および性別による検討を行った（Table 2 から Table 6）。

爆破対象の違いから、次のような犯人特徴がみられた（Table 2）。まず、官公庁を対象とした者に 50 代以上が多く、学校関係を対象とした者では 10 代が最も多かった。また、官公庁、銀行、民間企業等を対象とした者に犯罪歴のある割合が有意に高かった。動機については、学校を対象とした者に悪戯目的のケースが多く、銀行が対象となる場合は金銭目的のみであった。加えて、鉄道関係や民間企業などが対象の場合は、憂さ晴らしが有意に多かった。犯人

* 富山県警察本部刑事部科学捜査研究所
Forensic Science Laboratory, Toyama Prefectural Police Headquarters

Table 1 使用媒体別における犯人特徴

使用媒体	性 別 (n.s.) (%)		職 業* (%)			年 代+ (%)				
	男性	女性	有職	無職	学生	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上
電 話	91	9	30	61	9	14	9	28	21	28
電子ツール	95	5	30	35	35	27	60	5	8	0

使用媒体	住 所* (%)		犯罪歴** (%)		動 機** (%)				対象との関連** (%)		合計 (人)
	あり	不定	あり	なし	憂さ晴らし	悪戯	逆恨み	金銭目的	あり	なし	
電 話	79	21	50	50	40	14	23	23	37	63	43
電子ツール	97	3	17	83	37	47	17	0	9	91	37

**: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$, +: $p < 0.1$

Table 2 爆破対象別における犯人特徴

爆破対象	年 代* (%)					犯罪歴* (%)		動 機+ (%)				対象との関連** (%)		合計 (人)
	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	あり	なし	憂さ晴らし	悪戯	逆恨み	金銭目的	あり	なし	
官 公 庁	0	0	20	0	80	60	40	50	0	50	0	0	100	5
学 校 関 係	57	14	29	0	0	0	100	29	57	14	0	86	14	7
鉄 道 関 係	0	0	40	40	20	50	50	44	11	11	33	10	90	10
銀 行	33	0	0	33	33	67	33	0	0	0	100	0	100	3
民 間 企 業 等	0	20	27	20	33	73	27	47	7	27	20	60	40	15
イベント関係	33	0	33	33	0	0	100	33	33	33	0	33	67	3

Table 3 電話種別における犯人特徴

電話種別	年 代+ (%)					職 業* (%)			住 所 (n.s.) (%)		合計 (人)
	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	有職	無職	学生	あり	不定	
携帯電話	36	14	14	29	7	14	57	29	86	14	14
公衆電話	5	9	36	18	32	32	68	0	68	32	22
自宅電話	0	0	29	14	57	57	43	0	100%	0	7

Table 4 架電先別における架電方法の違い

架電先	架電方法+ (%)			合計 (人)
	携帯電話	公衆電話	自宅電話	
110,119	35	65	0	17
爆破対象	31	42	27	26

Table 5 性別と爆破対象との関連

性別	対象との関連* (%)		合計 (人)
	あり	なし	
男性	33	67	39
女性	100	0	4

Table 6 金銭要求と窃盗歴の関連

金銭要求	窃盗歴* (%)		合計 (人)
	あり	なし	
あり	78	22	9
なし	35	65	34

と爆破対象との関連については、学校関係や民間企業などを対象とした者に関連ありの割合が高かった。

電話種別でみると、携帯電話で 10 代、公衆電話で 30 代、自宅電話で 50 代の者が最も多かった (Table 3)。職業については、携帯電話と公衆電話の場合に無職者が多いのに対し、自宅電話の場合には有職者が多かった。顕著な特徴として、携帯電話使用者にのみ学生がみられた。

架電先については、110 番 119 番への架電の場合に、犯人が公衆電話から架電している場合が有意に多く、自宅から架電した者はいなかった (Table 4)。

性別に関しては、爆破予告者が女性の場合、爆破対象と関連のある者のみであった (Table 5)。

犯行動機の中でも、金銭要求をした者に窃盗歴を有する割合が有意に高かった (Table 6)。

また、居住地と公衆電話の距離は 3 km 未満で 54.5% と半数以上、6 km 未満になると 72.7% と 7 割程度であった。ただし、9 km 以上など遠距離におよぶ場合も

あった。距離は平均 3,830 m、中央値 2,970 m、最小値 130 m、最大値 11,840 m であった。

考 察

本研究から、爆破予告犯罪における犯人像推定の可能性を示唆した。特に、電話のように通信記録が残りにくい場合には必要となろう。ただし、通信手段を使った犯罪は、時代背景の影響を大きく受けと考えられることから、将来犯人像を分析する場合には時代背景を考慮した分析が必要になると思われる。

また、同様の犯罪として殺害予告が挙げられる。爆破予告が建物や不特定多数を対象とした犯行予告であるのに対して、殺害予告は個人に対する犯罪という違いがある。しかし、殺害予告に関しても爆破予告同様、研究知見が得られていないのが現状である。よって、今後は犯行予告の違いと犯人特徴に関する研究も必要となろう。

(受稿：2008.7.11, 受理：2009.1.19)